

コクチバスを琵琶湖で確認 - 発見の経緯と衝撃映像 -

高野裕樹（滋賀県立大学大学院）・兼頭淳・南野洋孝・沢田裕一（滋賀県立大学）

中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）

コクチバスはサンフィッシュ科に属する北米原産の魚で、日本には 1925 年に初めて持ち込まれたとされる（赤星, 1996）. その後しばらくは生息確認の情報が無かったが（望月, 1984）, 1992 年頃から長野県や福島県で生息が確認されるようになり（秋月, 2001）, 2001 年では 26 道県で確認されている（淀, 2004）. 他の外来生物と同じく生態系への影響が危惧され、2005 年には外来生物法の特定外来生物にも指定された.

一方、滋賀県水産試験場（2005）によると、滋賀県内の琵琶湖や河川などでは 1994 年から現在までの約 12 年間で 10 例・17 個体が確認されているものの、いずれも散発的な捕獲記録であった。しかし 2005 年 8 月、演者らは伊香郡西浅井町菅浦でのブルーギル・オオクチバスの繁殖動態調査中、コクチバス 1 個体が泳いでいるのを水中で目視確認し、写真と映像に収めることに成功した。当調査地では 7 年間にわたり潜水調査を行っているが、これまでコクチバスは確認されていなかった。また約 3 キロ離れた別の地点でも 9 月上旬から中旬にかけて複数個体を確認し、写真と映像に収めた。この地点では 8 月に釣り人が 2 個体を捕獲、5 個体を水中より目視したという情報を得ている。加えて 9 月 9 日、14 日には、西浅井漁協の組合員が菅浦および大浦周辺でコクチバス 1 個体ずつを刺網で捕獲している。

今回 2 ヶ月という短い期間に、4 個体のコクチバスが演者らによって目視確認され、釣り人や漁協組合員も複数個体を目視および捕獲した。この機会に実際の写真と映像をまじえて確認時の詳細を報告する。